都道府県番号	３６
都道府県名	徳　　島　　県

【　①■　　②□　　③□　】

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	高　　原　　小　　学　　校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	１２
児童数	２７	３５	３１	３２	３６	３４	3	１９８	

Ⅱ　研究の概要

（１）研究主題

たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方
～教える授業から学習する授業への転換～

（２）研究主題設定の趣旨

「たしかな学力」の向上をめざすため，個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善など，児童一人一人の実態に即したきめ細かな指導の充実を図る実践研究を推進することが求められている。

そのためには,すべての児童に基礎・基本となる知識や技能を身につけさせる「求同」と児童一人一人の個性や興味・関心を大切にし，創造力を育てる「求異」を有機的に関連づけて指導を進めることが大切であると考えた。

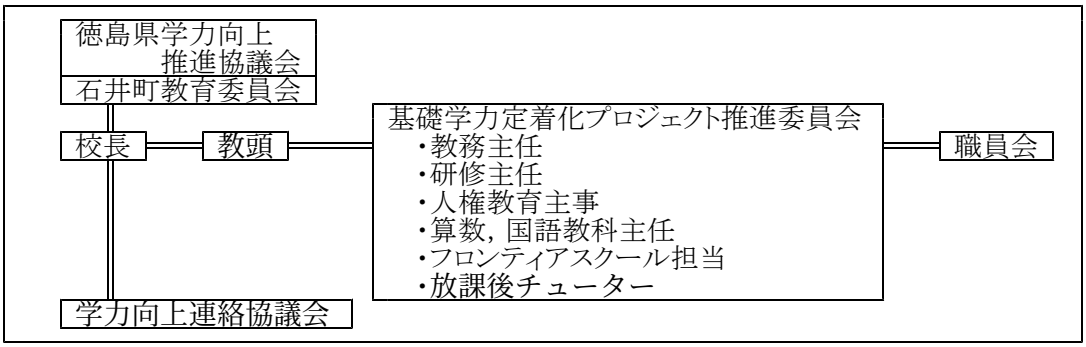
「たしかな学力」を身につけていくために，育てていかなければならないものは，「自ら学ぶ意欲」であると考える。本年度は児童の「自ら学ぶ意欲」を向上させることに重点を置き，研究を進めている。「自ら学ぶ意欲」を高めるための要素として，

A 基礎的体験を豊富にすること
B 学習意欲向上への資質を高めること
C 学習を支えるスキルを身につけること
D 望ましい学習態度を身につけること

の４点がある。A～Dについてアンケート調査を実施。結果を分析し，より具体的な研究方法について考えた。

Ⅲ　研究の概要

（１）研究推進体制の工夫



（２）研究の実際

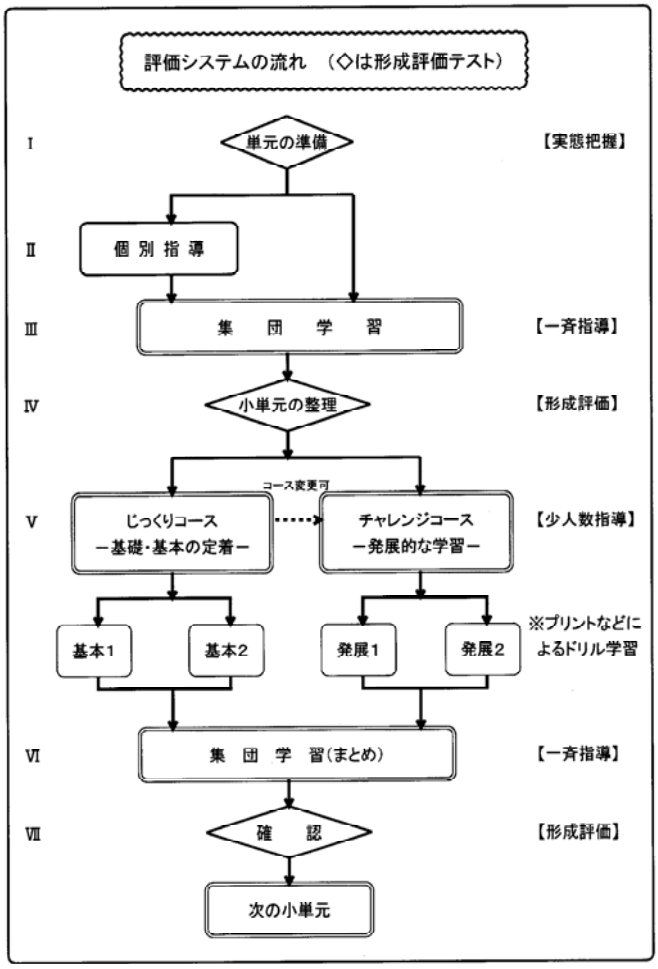
〇研究の内容・方法

・基礎的体験を豊富にするために，読書活動を中心に，学校や家庭でいろいろなメディアにふれる機会をつくる。（親子読書，読書の日）
・指導方法を工夫・改善し，子どもたちが主体的に学習する授業を創造する。

(TT，少人数指導，PERT 学習)
・教材・教具を工夫・開発し，子どもたちの興味や関心を引きつけ，分かる 楽しい授業を展開する。(課題別プリント,ワークシート,ヒントカード，ドリル,自作プリント)
・子どもたちの学習活動を適切に評価し，その結果を子どもたちに返していくことで一人一人の学習意欲を高めていく。(振り返りカード，評価カード，座席表)
・教師と子ども，保護者と子ども，子どもと子どもの「認め合い，支え合い，磨き合う」人的学習環境や子どもたちが学習に集中できるような物的学習環境など。(基本的生活習慣の定着化,「腰骨をたてる」等４つの生活のめあて)
・放課後学習チューター制度の導入（毎週火，木，金曜日の放課後に，希望者を集めて，百マス計算，漢字・計算プリントや課題別プリントによる学習，宿題などを行う。)

○実践例（第６学年算数科「平均とその利用」）

基礎・基本の定着を図る「じっくりコース」と，発展的な内容にチャレンジする「チャレンジコース」に分かれて学習することとした。本校第６学年では週４時間，ＴＴ指導・少人数指導（併用型）を行っているが，担任単独での授業の際も，コース別のプリントを作成し，答え合わせは各自が行うようにして，教室内でのコース別学習も行っている。



左の表は，評価システムの流れである。

Ⅰ　新しい単元に入る前に，子どものレディネスの調査を行う。
　本単元では，平均につながる「合計」「等分」について準備テストを行った。

Ⅱ　「等分」についての理解が不十分な子どもに対しては，休み時間や放課後に個別指導を行った。

Ⅲ　学習課題を設定した後，平均の意味や平均の求め方について一斉学習を行った。

Ⅳ　授業中，座席表を利用してつまずきなどを観察したり，授業後自作プリントを用いて理解度の評価を行ったりした。

Ⅴ　子どもの希望と教師の指導で２コースに分かれ，平均の考えを用いて身の回りの事柄について問題解決するドリル学習に取り組んだ。ヒントカードを用意し，子どもが自力解決の喜びを感じることができるように配慮した。「じっくりコース」の学習が理解できた子どもには，「チャレンジコース」の問題に取り組むよう促した。

Ⅵ　共通した問題の解決方法について全員で話し合い，小単元「平均」のまとめとした。

Ⅶ　確認テストを実施し，子どもの理解度について評価し，小単元「平均を使って」の学習へと進んだ。理解が不十分な子どもには，放課後等をつかって個別指導を行った。

（３）研究の成果と課題

（成果）

・TT や少人数指導により，児童一人一人の学習状況がよく把握できる。
・少人数指導のグループの分け方は，習熟度別や課題別，均等割のグループ分けがあり，習熟度別では，基礎・基本の定着を図る「じっくりコース」と発展的な内容に取り組む「チャレンジコース」に分かれたコース別学習を行っている。コース別のプリントを作成し，できるだけ自力解決できるようにヒントカードを用意し，答え合わせは各自が行うという学習スタイルの習慣づけをしてきたので，指導者が一人の場合でも，教室内のコース別学習を行うことができる。

・教材・教具の工夫・開発については，プリントを作成する際に，基礎・基本の定着をめざしたものや，発展的な内容を含んだものなど，個に応じた問題を盛り込むようにしている。
・学習の流れ（単元に入る前の準備テストや個別指導，TT，小単元や単元のまとめの少人数指導，最後の確認テスト）が定着しつつあるので，児童は一つの課題が終わったときに，教師の指示を待つのではなく，自ら進んで次の課題に取り組むようになってきた。
・単元終了後のテストや小テストの結果を学力テストの結果や学期ごとの成績と比較検討し，児童の理解度や習熟度の把握に努め，指導方法の改善，教材開発，評価に生かすことができた。

（課題）
・児童の学習意欲を高める評価活動のあり方や評価方法の工夫
・教材・教具のさらなる工夫・開発

（４）研究成果の普及の方策
・公開研究発表会等を開催する。（平成１５年１１月７日　研究発表会開催）
・研究協力校（浦庄小学校，高浦中学校）との連携を密にし，情報交換する。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□　６学級以下　■７～１２学級
□　１３～１８学級　□１９～２４学級
□　２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　■ Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　■ 算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□ 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

学校独自の評価システムを開発し，全職員が児童の理解度や習熟度の程度の把握に努めている。評価を，指導方法の改善や教材開発などに生かす努力をしている。